



# 1月の園だより



## 幸せを作る

新しい年が始まります。

お正月は、一年の始まりの元旦に歳神という神様をお迎えして、一年の無事と、家族の健康や幸せを祈る行事です。

園では毎年12月28日の「今年にさよならの集い」で歳神様と干支のお話を紙芝居や手作りの巻物を使って伝えて来ました。

注連飾りや門松などのお正月飾りは、家にお迎えした歳神様にお正月の間とどまってもらうためのもので、今も続けられています。お正月から始まる新しい年も笑顔があふれ、幸せ感じっぱいに過ごせるように、言葉の力を借りる、というのはいかがでしょうか。

「言葉には力がある」

「言葉は人の心に影響する」と言われているように、感情・言葉は密着につながっているのです。

あたたかい響きの肯定的な言葉を使うと気分が明るくなりますが、否定的な言葉では、自分の気持ちも受ける相手の気持ちも沈んでしまいます。

肯定的に考えることによって、「ふわふわ言葉」と言われるあたたく、やわらかい言葉を話せるようになり幸せを招くことができると思います。

お正月は、誰もが一年の最初に明るい言葉を交わす時期に当たります。

「明けましておめでとーございませう。」と、喜びを分かちあひ、

「ありがとうございます。」と、感謝の思いを伝え、

「よろしくお願ひします。」と、謙虚な気持ちで向き合う。

希望を託した明るい言葉が交わされるのがお正月です。

お正月を機に、温かく、思いやりに満ちた美しい言葉で心を満たし、その言葉の力を借りてすべての子どもたちが「楽しく幸せ」と感じられる毎日にしてあげたいと思います。

子どもはすべてどの子も、ご両親をはじめまわりの人たちから「そこに居てくれるだけで幸せだよ」と感謝され愛されて、褒められたり励まされたりすることによって、次につながる勇氣や自信を高めていることを忘れずに、新しい年も子どもも最善の利益のために「認める・励ます・ありがとう」で、ご一緒に幸せを作りたいと願っています。

「正月、考えられない」という糸魚川大火で被災された方々にも、遅れてもいいからお正月が来てくれますようにと念じながら。

園長 福田孝子